



地震後再建された稲荷堂鳥居

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番地10
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

小林国二 小林善秋 高橋潔 加瀬由紀子
室賀清輝 近藤マリ子 近藤善信
後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

今年も宜しくお願い 申し上げます

翠巖龍弘

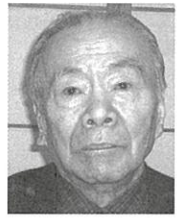
昨年は多くの方々から心暖まるお見舞、ご浄財を頂戴いたし、大変お世話になりました。お陰様で地震後の復興工事も着実に進み、上の写真のように鳥居も十一月末に新しくなりました。客殿の方は少し遅れ、一月末迄には完成の予定です。前号でも紹介いたしました

除・板間の雑巾がけ・食事のかまでの火焚・風呂焚・食器洗いの手伝い等々、家族全員で協力し合っつての日で、貧しいながらも食事も大勢で美味しく食べ、四季の移り変わりをあじわい、夢を持ち、大人から子供まで生きているという実感は今以上にあったように思われます。

戦後日本は平和を大事にし、経済的に豊になることが、皆が幸福になれると信じて頑張り、昔では想像できないほど豊に、また便利になり、生活をエンジョイしている人も多くなりました。しかし、何故か凶悪事件が増え、心の空しさを感じる人が増えてきたようにも感じられます。「袖振り合うも多生の縁、旅は道づれ世は情け」などお互い信用し、助け合ってきた世の中が、利益のためには人を騙し、欲望のために子供を犠牲にする事件も増え、他人を信用するなと子供に教えなければならぬ世の中となりました。

言葉は人の耳を喜ばすようなものではなく、世の人から尊ばれるような人間になる道理を教えるものでなくてはなりません。
—エウリービデース『ヒッポリュトス』—

本年も宜しく お願い申し上げます



豊かな心を育むために
太刀川進之介

明けましておめでとうございます。ご壮健で新しい年をお迎えのことでしょう。

一昨年は大水害に続いて突然の中越大地震と辛酸を味わった年でしたが、越後人の粘り強さで日々復旧作業が進められています。

安善寺さんも例外ではなく被災し、本堂の修復、位牌の落下防止、控室及び多目的使用の客殿の新築工事と、二月末完成を目標に作業が進捗しております。完成致しますと、これ等は私ども檀信徒の心安らぐ拠り所、氣樂に集えるお寺としての機能が備わることでしょう。

これは檀信徒の皆様から多額な浄財を賜ったお陰です。ご自宅も被災された方も多い中で、物心両面のご

協力に感謝申し上げます。

昨今は明るいニュースもありませんが悲しい事が多く、心の貧しさが起因していません。豊かな心を育むためにも安善寺さんを活用しましょう。皆様のご多幸を心から祈り上げます。



安全と安心の社会づくり
小林 政雄

檀信徒の皆様方の中には一年前の中越地震の被災で、通常生活に戻られた方と、今でも不自由な生活をされておられる人達もと、胸の詰まる想いです。これらの方には一日も早く「安全と安心」の暮らしをお祈り致しております。

世の中には「天変地変」の不可避と思われる災いと「人為的で悪意に満ちた」と思われる災いがあるよう

に思います。水害や地震は、自然科学と予知の進歩で将来は被害の想定と予備対策が進み、最小の被害でと期待出来ます。これは国や地域ぐるみでの情報伝達や行動が一体となれば可能でしょう。名古屋へ赴任して六年で

当初の関心事は「東海南海地震の予知と対応策の策定」でした。当局、大学、市民団体、そして建築関連の活動が年を追うごとに催し事が多くなりました。仕事の関係があり「弱者の救済と社会貢献」に何が出来ると、関連の方達に訴え続け「何が動き出しつつ」となつて参りました。会社も大いに活動しております。

昨今の強度不足建築物の事件で、より「安全と安心」を考えている市民が多くなつたと思います。悪意の業者は「儲けと命を」天秤にかけているのでしょうか。

もう一つの「安全と安心」を脅かすものがあります。幼い子供達を無惨に殺す事件が、そして金品の強奪に

は何でもやるといふ風潮が静に深く「人の心」に棲みつくと思うと、背筋が寒くなるのは私一人でしょうか。今こそ「慈悲」の心と行動が毎日の生活の中に根ざしてゆくことを念じて折ります。合掌



南無釈迦牟尼佛と唱えて
笠井 義一

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。本年も宜しくお願い申し上げます。檀信徒の皆様のご浄財による客殿の新築も着々と進んでおり、完成を心待ちしておりますこの頃です。

先日、五教区の護持会、廻り開山忌が行われ出席して来ました。其の折りのご法話は、滋賀県常栄寺住職弘海明道老師様で「本山としての考え方、今後の方針について」有意義なお話がありました。其の中で常日

頃他の宗教では仏事には必ず「南無阿弥陀仏」と唱えて合掌されておりますが、曹洞宗では「一仏兩祖」であるので、お唱えは「南無釈迦牟尼佛」と唱えてほしい。旨お話がありました。

本堂の修復は完了し、客殿も間近に完成すると思えます。立派な設備も完備するので今後のお寺の行事、お檀家の方々におかれましては折りにふれて、精々ご利用していただきたい。

一月、二月と段々と寒くなりませんが、昨年のような大雪にはならないとの長期予報ですが、昔の諺に「あたらぬも八卦、あたるも八卦」と言われております。小雪暖冬を祈っております。



一期一会のご縁を大切に
室賀 輝男

明けましておめでとうございます。一昨年の中越地震災害に

続き、昨年は日本や海外のあちこちで、台風や地震による津波、鉄道事故等々に見舞われ、心を痛める日々が続きました。

中越地震で大きな被害を受けた安善寺様も、檀信徒の皆様からの心暖まるご支援を戴き、復旧工事は工事関係者のご尽力で今春には完成が見込まれることは誠に慶賀に堪えません。

年々、心の時代が忘却の彼方にかすみ、寺院との絆も変化する今日、心のよりどころ、悩み苦しむ、喜びを分かち合い、互いに理解し合う交流の場として、檀信徒は勿論、一般社会の方からも気軽に寺を訪れ、施設を多目的に利用して戴くことを悲願に、安善寺老師のご意向で設計されてあります。

世の退廃を反省し、美しい国づくりに、明るい平和な家庭づくりに、一期一会のご縁を大切に心と物の調和が取れる精神文化の向上に役立つ施設として皆様からの声に耳を傾け、護持会の運営に当たりたいと思えます。変わらぬご支援をお願い致し年頭のご挨拶とします。

もっとも長生きした人とは、もっとも多くの年月を生きた人ではなく、もっともよく人生を体験した人だ。

【大本山總持寺 雲水日記】

アメリカでの二ヶ月間の研修（その一）

近藤真弘

あけましておめでどうございませう。

早いもので本山で迎える正月も今年で五回目となりました。總持寺修行を始める前は、毎年越しは安善寺で迎えていましたが、参拝者が何万人と来る總持寺では忙しい正月に帰ることができません。三箇日は一日中祈禱太鼓が鳴り響いています。安善寺でもお盆に続く忙しい時期なのですが仕方ありません。

お盆と言えば、八月のお盆の時期は二十八年間修行中も暇をいただき安善寺の手伝いに帰っていました。しかし、昨年の夏は生まれて初めて安善寺以外の場所でお盆の時期を過ごしました。なぜかと申しますと、昨年の七月二十五日から十月一日までの約二ヶ月間、私はアメリカに行っていた

からです。と言っても、決して遊びに行っていたわけではありません。

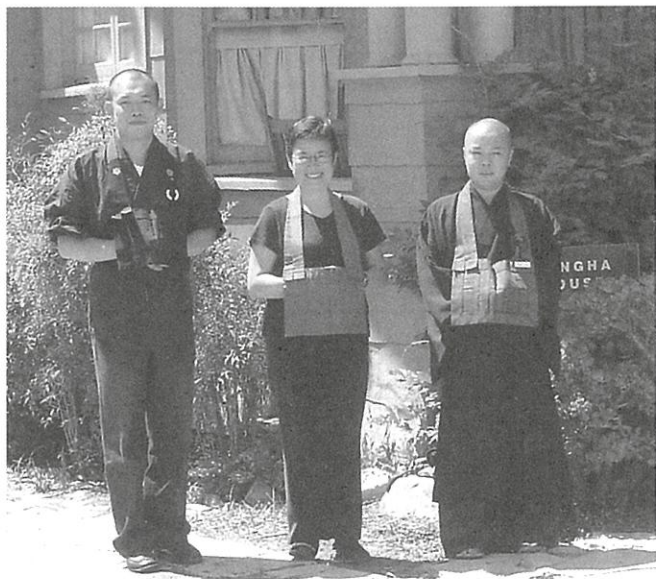
昨年私が行ったのが第一回ということで、曹洞宗の行政機関である宗務庁というところから予算が出て、總持寺より二名の修行僧が海外へ研修に行くことが決まりました。そこで私は北米へ、もう一人はヨーロッパへと、それぞれ研修に行くことになりました。

知らない方も多いと思いますが、曹洞宗は一〇〇年ほど前から海外の諸外国にも布教を展開しており、アメリカだけでも何十もの曹洞宗寺院が建立されています。私が今行ってきたのはロサンゼルスとサンフランシスコ周辺の寺院で、二カ寺にそれぞれ一ヶ月づつ滞在いたしました。最初の一ヶ月はロサンゼ

ルスから車で二時間ほどの「禅マウンテンセンター」というところに滞在しました。ここは、名前の通り山の中にあるお寺で二十人ほどの人が点在するキャンピングで寝泊まりをしています。プライベートを重視す

るため、一人ひとりに部屋が与えられていたのですが、山の中の木などはそのまま残し、自然と調和して建物が建てられていました。

ここでの生活は、一日のスケジュールがすべて時間で決められていて、その通



ロサンゼルス・禅センターにて

りに生活します。朝、昼、晩、夜と坐禅があり、そのほかの時間は掃除を行います。掃除と言っても掃き掃除や拭き掃除ではなく、外での作業が多く、雨が降った翌日には雨の通り道をシヤベルで造ったり、でこぼこの道を舗装して砂利を敷き詰めたり、大きな石を運んで城壁のように重ねて壁を造ったりと、重労働がほとんどでした。

生活をともにしている人はすべて外国人で、日本語はまったく通じません。英語が不得意な私は掃除の内容を理解するだけでも一苦労で、大分迷惑をかけました。驚いたのは、毎日のお勤めで読むお経も英語に訳されており、リズムは一緒ですが、英語のお経本を手に、目で追うのがやっとでした。

ここに滞在した後半のほうで一週間、攝心と言って集中的な坐禅期間があり、その間は電話、手紙、メールは禁止、本を読んではいけない、書き物をしてはいけない、しゃべってはいけないなど、細かい決まりが多



1ヶ月間滞在したキャンピング

くあり、日本の僧堂より厳しい雰囲気がありました。アメリカでは仏教というよりも「禅」に興味がある人が多く、そこで生活する人皆が真剣に禅に取り組んでいました。

興味深かったのは、そのお寺で生活している人の半数以上が私と同年代くらいの若者だったことです。あるとき何人かの人に「何故禅に興味を持ったのか」聞く機会がありました。アメリカというのは多種多様な人種がいることで、宗教も様々な宗教がありますが、ほとんどの人は、自分の生きるための指針を求めて禅の道に入ったと言っていました。（以下、次号へ続く）

大切なのは普通の語で非凡なことを言うことである。

—ショウベンハウエル「読書について」—

読者からの便り

子孫に人を敬う心を

長岡市花園東●小林 功

一歳の孫が家に来ると、おぼつかない足取りで最初に仏壇の前に座り、木魚、お鈴を叩く。この年頃の子

どもは音の出るものが大好きで、木魚とお鈴は格好の遊び道具であります。仏壇の花や水などお供物は片付けなければ、それこそたまったものではありません。孫の親は仏壇に手を合わせることを忘れることもありません。その点、孫は立派なもので、忘れずに仏壇の前で木魚とお鈴を叩き先祖に自分の存在を知らしめているように思われます。これがいつまで続くか、いや我々が仏壇の前で合掌し、先祖を敬う心を教えていくことが必要であると考えています。

私の生家はお寺の前で、お寺と関わりながら育てられました。お釈迦様の誕生

日は甘茶をご馳走になったり、団子投げには、その団子を財布の中に入れておくと健康であるとか、お金がたまるとか祖母から言い聞かされたものです。お盆になれば迎え火の中、方丈様の後ろについてミヨウハチを叩いて手伝いをしたものです。



恥ずかしかったことは、小学校三年生ごろの寒い冬と記憶しています。私は坊主頭でマントを身につけ鉢に借り出されたことで、同級生の女の子の家に「釈迦の鉢」と言ったきり顔を上げることができなく、下を向いたままでした。

次の日、学校で「坊主、坊主」とからかわれたことは今でも忘れません。「人に迷惑をかけること、親を悲しませ泣かすこと」以外は恥じることは無いと、方丈様に諭されました。この経験が私の人格形成の基本となつていきます。

近ごろ、悲惨な事件が毎日のように報じられていきます。どうしてこんな世の中になつたのでしょうか？責任探しをしても仕方ありません。「人を尊重し、敬う」心を醸成することが、今こそ家庭教育に求められているのではないのでしょうか。

日本古来の仕来りが形骸化して来ているように思います。今こそ古来の仕来りを取り入れ、精神的に豊かな生活が必要ではないでしょうか？せめて自分の子どもや孫に、この心をひきついで行きたいと思つています。

彼岸に際し

人の真の幸福を思い

世界平和を祈る

長岡市中島●酒井美与吉

九月二十三日午前十時

半、安善寺本堂で彼岸中日の法要が厳かに行われ、百余名の参会者による焼香の後、方丈龍弘師の法話を拝聴。四十五分に亘る法話の要旨を摘録させていただきます。

「今日は彼岸の中日です。皆さんはお墓参りをされたでしょう。本堂の本尊様も拝んでください。私どもの曹洞宗の本佛は、南無釈迦牟尼佛です。昨年十月末の中越地震では、当寺の本堂、位牌堂などに災害を受けました。しかし皆様の暖かいご支援により、修復を完了しました。その他の部分の工事も来春までに終わる見込みです。

皆様はご自宅の被災にも拘わらず、当寺のために多大の寄進を賜り、誠に有難うございました。人間が祖先の恩に感謝し、この世に生を享けた喜びを味わい、「安心」を感じるのが彼岸です。

長野の円福寺の藤本幸邦師が、青少年教育のために編纂された「心のノート」に、人が人生の道を迷わず、正しく進むために、次のような教訓が挙げられています。

- 一、仲よい友達をつくらう。
- 二、人間のルール(佛戒)を守らう。
- 三、心のめざめ(懺悔)を忘れるな。
- 四、欲ばり、怒り、愚かさを捨てよ。

人の真の幸福は財産や地位でなく、自分の心の幸福です。自己の幸福よりも、人のため世のためにつくす心です。

- 一、生命を大切にせよ。
- 二、他人の物を盗るな。
- 三、男女はまじめであれ。
- 四、嘘を語るな。
- 五、酒に狂うな。
- 六、一を罵るな。
- 七、うぬぼれるな。
- 八、施しを惜しむな。
- 九、怒り妬み憎しみを鎮めよ。
- 十、仏・法・僧を敬え。

人間は長い進化の過程を経て、他の動物より遙かに高い知性を得て、文化、文明を築きました。しかし、人間は、食物・土地・資源などへの欲求から、国家の差、人種の別、宗教宗派の

対立などで、互いにせめぎ合い、絶え間なく戦いを繰り返して、二十一世紀の今も、全世界の平和は見られませんが、強大国の横暴、テロリストの非道など、目に余るものがあります。

私共は、平和を願う佛教徒として、世界の恒久平和の達成に努めましょう。

今から六十四年前の太平洋戦争で、四年間海軍の一員として第一線に従軍して生還した筆者は、戦争の愚かさど恐ろしさを経験し、何よりも日本国の平安と国民の幸福を願います。また、アジアの近隣諸国との友好共存を熱望します。それ以上に、この地球の安全と永存を祈ります。人類は一刻も速く、地球温暖化の進行を阻止すべく、全知全能を傾けるべきです。人間活動(主として自動車などの排気)によって、海水温度の上昇が台風やハリケーンの頻発を生じ、北極圏の氷山を溶解させています。また、人間が放出するフロンガスが南極上空の

魂の致命的な敵は、毎日の消耗である。

オゾン層を破壊し、気象異変を起すと言われている。今急ぐべきは、自動車の燃料の改変、機関の改造だと信じます。

人類にとって、かけがえない母たる地球を永存させるのは人間の責任です。更に全人類絶滅の要因となる核兵器を全世界から一掃すべきです。

明るい希望に満ちた平和な地球を永遠に存続させるため、全人類一丸となって努めよう。

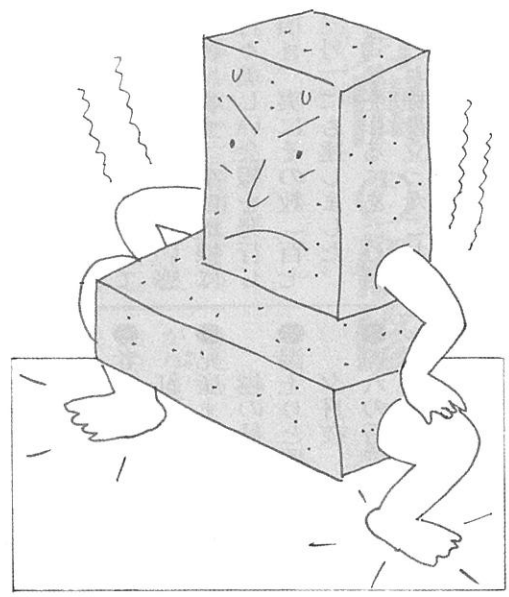
平穏で

幸せな日々を祈る

新潟市草水町 ● 中野健一

七月の下旬、一度は行きたいと家内と話をしていたタイ国に旅行する事が出来ました。新潟空港から韓国仁川国際空港を経由してバンコクを往復する三泊五日の日程でした。新潟からは四名がバンコクに行くとのことでしたが、実際に旅行を目的に行くのは私たち二人だけでした。私も家内も日本語以外言葉がわかりませんので、バンコクまでの八時間は不安

で一杯でした。捨てる神あれば拾う神ありで、タイの留学生と席が隣同士になり、片言の日本語に正確な新潟弁で会話をし（相手が理解できたかは不明でしたが）、楽しい旅になりました。留学生はご主人と娘さんに会いに行くとのこと、タイ語・英語、そして日本語と会話ができ、バイリンガルで頼もしく思えました。バンコクとアユタヤを通訳とドライバーの四人で完全貸切で案内してもらいました。印象的だったのは三つあります。一つは、王様は人民のために私財を投げ打って道路や建物を造ると教えられていること。二つ目は、王宮や寺院は金色の輝く建物で、正に天使の棲む町と思えるほどの美しいこと。三つ目が、日本語が恋しくなったらお土産店に行くこと。番外は、ロウ人形館を見学したときに、悪いことをすると罰を受けるという教えを親子の悲しい人形で表現したのを見せられたことです。日本には人形や本で、人として大切なこと（ルール）を



教えるような躰は消えて行ったのではないのでしょうか？ 個人主義が世間の流れで、自分さえよければ他人はどうなってもよいという考え方が横行しています。どういふことが良いことで、どういふことが悪いことなのかを教える人も少なくなり、残念に思います。安善寺様が人間として正しい行いを教える発信源となってくださることを願うばかりです。

中越地震の一週間後にお墓の異状を確認しにお寺を訪れた時、お陰様で私の墓は殆ど無傷状態でした。先祖があの世からがっちり足を踏ん張ってくれて、自然の力に耐えてくれたのではないかと思うほどでした。奥様より、年忌でお茶を頂いた庫裡も壁が落ち、本堂もあらゆるものが飛び散って、地震の恐怖を興奮させた口調でお話を聞かせてくださったのが印象的でした。

位牌堂の中は殆どの位牌が下に落ちて大混乱、中国からの修行僧が本堂や位牌堂を修復してくれたと感謝されておりました。お盆には殆どの修復が済んで、地震前の静けさに戻っていました。お墓をきれいに掃除してから、今まで以上に平穏であるようにと祈りました。

お別れ

(平成十七年九月十三日)

塩川勝巳様 九月二日寂
長岡市希望が丘

町永一夫様 九月十三日寂
長岡市西新町

諸橋千恵様 九月廿六日寂
新潟市白根

品田房雄様 十一月十五日寂
長岡市川崎

渡邊優子様 十一月廿一日寂
長岡市千手

平岡豊子様 十一月三十日寂
蓮田市

山口とみ子様 十月十六日寂
長岡市干場

ご冥福をお祈り申し上げます。

無碍智俳句の会

苦しみ、楽しみながら十五年

会田ひとし

「石の上にも三年」とい
う諺があります。無碍智俳
句の会が発足して十五年に
達しました。

句集十周年記念号に五十
嵐美代子さんが「これから
も苦しみ、楽しみながら十
五周年、二十周年と続くこ
とを願っております。」と
結ばれました。この十五年
年記念の三号が発刊された

ことは慶び
に堪えませ
ん。この句
集の特色は
和紙、和綴
じ一針一針
句友皆が協
力作りあげ
た血の通う
手製である
ことなのです。



私達の孫子、朋友、俳句

に興味のある人は勿論、無
い人にもその温もりを感じ
取ってもらえるものと思い
ます。そして此の時代に生
きた私達の考え、感じ方を
この句集から読み取って
いただければ幸いです。

終わりに此の会の存続に
一方ならぬ力添えを頂いて
いる方丈様、奥様に深い感
謝を捧げます。事に奥様
には月々美しい会報を発行
して頂き、実にその数「百七
十二号」にも達しました。
此の句集を作るにあたり選
句にどれ程役立ったことか
わかりません。本当にあり
がとうございました。

第六回 KAKA 笑の会報告・シンポジウム

サービスマンする楽しさ、される楽しさ

この会始まって以来のシ
ンポジウム、ということど
うなることかと心配でし
たが、百名近い出席があり、
盛会でした。

まずトゥモロー・ウイン
ズのオカリナ演奏。素朴な
土の香りたどよう音色は、
ほのぼのと和んだ雰囲気

●福笑ひこの世も少し
ずれてをり 悠朋

●昨日今日違ふ顔して
山笑ふ マリ子

●地震は地震丸々たる
冬キャベツ ひとし

●トランプの婆を手にして
初笑 冬子

●老ひを生き友と乾杯
紅葉宿 竹子

●児産まる天地異変の
越の秋 豊子

●湯上りと風に吹かれて
夕月夜 八百子

●蟬八の香で癒すや
地震の疵 範子

●年二回会う人の居て
彼岸寺 美代子

会場を魅了しました。

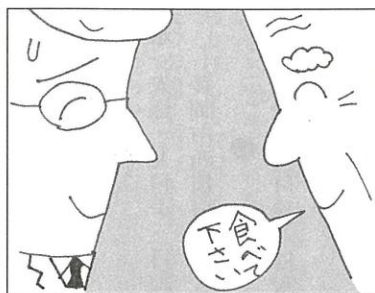
続いてシンポジウムです。
三人のパネラーは予想通り
楽しいコメントのバトルを
展開しました。黒岩卓夫萌
気会理事長は、往診時のエ
ピソードを披露。患者のお
年寄が黒岩先生を心待ちに
して、用意してくれた

モチを出されたのだが、カ
ビが生えていたこと。仕方
なくそれを食べた、これも
医師のサービスマンだからと
話されると、会場は大笑い
になりました。

続いて、吉崎孝ホテルニ
ユータータニ長岡総支配人
は、ホテルを左右するのは
お客様、それも中年女性の
評価です。味に厳しい皆様
のような方から口コミでの
宣伝が有効で期待に応える
べくサービスマンに力を入れて
います。また皇室の宿泊へ
の対応など興味深い内容に

参加者を引き込みました。
岡元真弓きものブレイク
副社長は、百三十人の社員

のうち二割近い障害のある
人を雇用していますが、そ
れぞれの能力に応じて会社
もサービスマンを提供、それ
深い信頼関係を生み、企業
のイメージもプラスになる、
といった社内の実情につい
て話されました。



話題の豊富な各パネラー
に、一人ずつの話の場を次
回は設けて、という要望も
寄せられ、成功裡に終了で
きました。

KAKA 笑の会では、次回
も楽しいイベントを企画い
たします。随時会員募集を
受け付けております。安善
寺へお問い合わせ下さい。

論議するだけなら議員は大勢いる。実行が問題になるとだれもいなくなる。

ベニスの夏の日

加瀬由紀子

旬歌 愁灯 [その八]

殺伐とした事件や災害が続き、あまりいい年とはいえない。なかつた二〇〇五年。しかも早々の寒波、大雪にめげてしまう。社会現象としては、ニートや引きこもりが身近に定着してしまつた。他方、耐震性強度偽装の波紋はいったいどこまで広がるのだろうか。世の中総て

偽装じゃないのか、と懐疑的になつてしまふ。高笑いしているのは、小泉さんと、なんとかヒルズで大金をゲーム感覚で動かして、利益を得る一部の人たちだけだ。それでも新たな年が巡ってくる、夢や期待を抱くのが哀れにも不思議である。あわただしい師走のある日、今年も遠方から一通の嬉しいカードが届いた。インドのラジャスタン州の友人、アジュミールからだ。一九九五年初秋の北京で開催された、国連の世界女性会議。世界各地から四万人もの女性たちが集まつた。日本からも数千人、新潟からは百五十名ほどが北京へ集合した。公的な会議やセレモニーにはもつぱら参加せず。私は三百近いワークショップへ足を運んだ。それまでできるだけ日本人のいない会場を目指した。異文化の地域で暮らしている女性たちのなまの声をきいてみたかったのだ。そのひとつ、遊牧民のワークショップで知り合ったのが彼女だつた。刺繍が美しい黄色いサ

リートの女性は、額に刻まれた深いしわのせい私と同じ年とは思えなかつた。「私の仕事は毎朝と夕、二キロの道を水汲みに往復することです。昔は近くに泉があつた。オアシスの木を切つて薪に使うことが出来



た。泉が枯れて鳥も虫もいなくなつた。木が枯れて、遠くの泉に通わなくてはならなくなつた。男たちは草の多い場所まで放牧に通うので離れ離れになる暮らしだ。私も若くはない、いつまでこの暮らしを続けなくてはならないのか。」発表

を終えたとため息をついて顔をおおつた。私はかんばつ、地球温暖化、環境破壊を肌で感じ、地球レベルで取り組まなければならぬ課題なのだと再認識した。帰り際にアジュミールと会うことができた。「生態系

を終わるとため息をついて顔をおおつた。私はかんばつ、地球温暖化、環境破壊を肌で感じ、地球レベルで取り組まなければならぬ課題なのだと再認識した。帰り際にアジュミールと会うことができた。「生態系

を保つことが重要ですよ」というつもりだつた。差し出された手を握り返すと私は一瞬とまどつた。あまりにもざらざらと荒れたこぶだらけの手だつたのだ。「テイクケアユアセルフ！（あなた自身を大事にして）」私の口をついて出た

のは意に反してその一言だつた。「サンキュ、ユキコ、ユウツウ（あなたもね）」私の胸の名札を見てユキコ、と語つてくれた彼女。去りがたい思いがこみあげてきて会場の隅にある休憩所で、ぬるいコーラと一緒に飲んだ。そして彼女が北京に来るために借金をしてきたこと、そうまでしても世界中から訪れた女性たちに窮状を知らせたかつたこと、五人子どもがいて長女に孫が生まれること、おいしいチャイをいれるのが自慢。そして日本の友達ができてとても嬉しいと笑顔を見せて。お互いの下手な英語が逆に親近感を盛り上げた。

以来、毎年かかさずカードを送つてくるのだが、インドの乾燥地帯で今も毎日水汲みに通う女性たちのことを思うと胸が痛む。

九月の北京は蒸し暑いながらも、空は澄んで抜けるように青かつた。ホテルは要所毎に護衛が監視していて、設備も旧式で、快適とは言えなかつた。それでも各国から集まつた女性たちと

一緒に、喫茶室で飲んだ中国茶はおいしかつた。どんな状況でも元気なのは、アフリカ諸国からの女性たちだ。数人集まると歌が始まり、踊りのステップを踏み出す。日本ではもう見かけなくなつたジュークボックスが置いてあり、スタンダードジャズが流れていた。マラウイから来た女性がコインを入れる、と「ベニスの夏の日」に代わつた。映画「旅情」でキャサリン・ヘプバーンが東の間の恋に別れを惜しんだ名場面がよみがえつてきて、郷愁を誘つた。そのスローなメロディは北京の古いホテルに妙に似合つていた。その女性も映画を見たことを思い出したのだという。

私はインドからのカードを何度も読み返しては、なつかしい「ベニスの夏の日」をハミングした。北京の青い空と遙かその空の彼方、インドの砂漠地帯で暮らす遊牧民の一女性との出会いを思い出しながら。アジュミールの新年がよい年でありますように。

他をあげられるものは同時にまた他にあざけられることを恐れるものである。

なにが幸いするか



ペコのひとりごと

明けましておめでとうございませう。

昨年秋の越後は時雨れる日々が多く、落葉を掃く機会が少ないまま十二月に入って間もなく雪になってしまいました。思いもかけず早い雪だったものですが、備えが間に合わずあちこち消雪の水でダボダボのところが多いようです。

お寺も震災後の復旧工事が進み、寒さに向かう中でお姉ちゃんやお兄ちゃん達が私の居場所がなくなる事に「サクラも居るのにペコどうするんだらう」と心配してくれていたようです。

ストーブが出ていないうちは適当にあいているスペースを探し休んでいたのですが、さすがに夜の冷え込みにはサクラの恐ろしさより寒さの方が堪えられず、怖く部屋に入ってストーブの前で寝ていました。

そうしたらサクラが部屋に入って来るなり私のところにやって来て、私の体ほどもある顔で私を見下ろしているではありませんか。ジーンと我慢していましたが、私の匂いを嗅いで部屋の反対側に行っていました。でも、玄関のチャイムが鳴ると凄く勢いで吠えるのです。最初はその声にびっくり

して、何処から逃げ出そうと構えていましたが、目を追う毎に「吠えるだけで私には何の危害も加えないんだ！」という事がわかり、最近ではストーブの前で体を寄せ合って寝ていることも多くなりました。でも時々、玄関のチャイムが鳴るといきなり立ち上がり吠えるのですが、立ち上がっ



た時にサクラの尾が私の背中を思いつき叩く事があります。吠える声には慣れなくても、叩かれる痛さにはへいこうしてしまいます。

ゆつくりと何の心配もなく休む部屋があれば未だにサクラとは一緒に部屋に居ることすら出来ませんでしたが、何が幸いするか解りません。

みんなが集まる部屋に私も参加することができ、夜は住職の布団の中に入れてもらえ、この上なく幸せです。

今年の春には遅れていた仕事も終わるようです。住職とお母さんはサクラより私が爪で新しい柱などに傷をつけないか心配しているようですが、私もそれだけは気をつけなければと心に誓っています。 ニヤーン

編集 雑感

明けましておめでとうございます。中越震災よりすでに二回目の新年になり各地での復興が進んでおります。時が経っても忘れられぬ出来事でした。皆様の中でもまだまだ大変な思いをされている方々も多いと心よりお察し申し上げます。

安善寺における被害も大きかったですが、皆様のお心で復興は着々と進行しております。

広報活動も早いもので八年になります。初代安藤編集長の尽力で開設した季刊誌です。皆様のお役にたっておれば幸いです。ただ八年間も同じような内容になると飽きられてしまいます。編集委員会で頭をひねっておりますが、なかなか難しいものです。

いものです。一番良いことは、皆様の投稿です。沢山の投稿が有る時は簡単に紙面が出来ます。そうでないと苦労をせねばなりません。ここが辛いところです。

投稿は難しく考えないで下さい。日常の出来事やちよつと気になること(疑問)を投げかける、お寺にお出かけ戴いた感想なり、何なりと気楽に投稿下さい。俳句・川柳・短歌での表現でも結構です。皆様と共に歩む安善寺の季刊誌です。是非ともご参加戴けると有難いです。

人の時間は限られております。その時間に足跡を残すことは重要です。皆様の一筆が安善寺での足跡になります。孫子の代まで語り継がれる伝統・文化を紙面に残すロマンに参加下さいませようお願いします。

編集委員会は九年目の足跡に日々新たな気持ちで取り組みたいと思っております。これからも宜しくご支援賜りますようお願い申し上げます。

感謝合掌
小林国一(編集委員長)

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

第三十三号、春号は平成十八年三月十日(金) 発刊予定です。

自分自身の体験と思索によって到達した考えは、たいがいの場合われわれはおだやかにつつしみ深く口にするものである。